

# 緑窓



青山学院中等部緑窓会会報

第3号

1994年(平成6年)5月1日発行

青山学院中等部緑窓会 発行人 飯久保康嗣

〒150 東京都渋谷区渋谷4-4-25

電話 03-3498-5387

## 緑窓会を支えてください！ 同窓会活動のために

### 維持会費の払込みを忘れていませんか？

一九九一年に会則が改正され、それまでの終身会費制から入会金と維持会費の制度に変わりました。

創立後四〇年を経た緑窓会は、会員が一万人を超えて、会報を印刷し郵送するだけでも二〇〇万円も掛り、また、毎年緑窓会の日を開催する等、活動も活発になってきましたので、年間ではどう切詰めても、三〇〇万円近い経費が掛るようになりました。

この費用を全て、15歳で中等部を卒業したばかりの、新会員の終身会費に依存する事はとても不可能です。

そこで、新会員からの入会金は二千元、普通会員の維持会費は四年毎に二千元(一年分五百円)と定め、総ての会員が、継続的に少しずつ、会の費用を分担する仕組みにしたわけです。

一九九二年度から、会費の払込が始まり、間もなく二年が過ぎようとしています。

## 緑窓会の日 今年も6月4日(土)

説教「殺すな、愛せよ」

深町正信院長

祈禱 世田谷キリスト教会

羽生基雄牧師(四期)

オルガン

青谷充子(三三期)



### 深町正信先生

学校法人青山学院院長

銀座教会、経堂緑ヶ丘教会、鳥居坂教会等の副牧師、牧師を歴任。社会福祉法人CCWA国際精神里親運動、バット博士記念ホーム理事長。静岡英和学院、和泉短期大学等の理事。

### 農薬中毒二〇〇万人、死者四万人 私達の食卓は安全か

午後4時から田坂氏講演

九三年の記録的大凶作から、あつと三ヶ月間に米の大量輸入が実現。さまざまな論議を呼んでいます。経済問題の他に忘れてならないのは安全の問題です。現在は禁止されていますが、長年の間に大地に蓄積された危険な農薬。一九八三年、一〇年前の統計で全世界の農薬中毒被害者は約二〇〇万人。これによる死者は驚くことに四万人を数えています。その上国によってまちまちな規制、収穫後のホストハーベスト農薬については、「先進国」と言われている日本でも分析

現在までに、どの位の同窓生が会費を払込んでくれたでしょうか？ 残念ながら未だ二割を超えた位の所です。今年、来年と後二年で、会員全体のせめて半分くらいの方々からの払込を、期待しているのですがどうでしょうか？

私たち、中等部卒業生みんなの同窓会である緑窓会が、今後とも名簿を作り、会報を発行し、緑窓会の日を開催し続けながら、母校の発展と会員相互の親睦に寄与して行けるかどうかは、会員一人一人の協力に掛っています。

今年の二月末現在で、会費が未納になっている方々には、封筒にその旨印刷した紙が同封されています。赤い紙が入っていた方は会費の納入を忘れていらっしゃるの、お手数ですが早速お払込ください。

## 午後2時 場所は短大礼拝堂

化学者の数すら足りません。

今年の緑窓会の日メインの講演は六期生、国際基督教大学準教授田坂典重氏の「日本の飽食とアジアの農薬汚染」としました。ガンジーは「この地球は、すべての人々の必要を満たすには十分なものは提供できるが、人々の欲望をすべて満たすことはできない」と記しています。あなたの食卓は安全ですか。

田坂氏 略歴

一九四〇年 新潟市生れ。(田坂誠吾先生の次男)

一九五八年 中等部を経て高等部卒業(六期生)

一九六二年 東京工業大学理学部化学科卒業

一九六四年 同大学院修士課程修了。理学修士

一九六八年 同年フルブライト交換留学生として渡米。

Ph.D. 米田ニールヨーク州立大学ストローブリング校大学院博士課程修了。

同年東京工業大学助手。

一九七〇年 国際基督教大学に移籍。

一九八二―八三年 国際協力事業団(JICA) 理学教育専門家としてタイ国に派遣。

現在 同大学教養学部準教授、同学部副学部長、

学人財開発機構(CHEI)理事。

アジアキリスト教教育基金(ACCEF) 評議員

Pesticide(殺虫剤) Action Networks (PAN) 日本代表

著書 「アジア輸入食品汚染」一九九一年、「ガットの落とし穴」(共著)一九九二年、「NO」といわれる日本」(共著)一九九〇年、「食と農の分離とゆくえ」(共著)一九九四年。



緑窓会名誉会員、初代中等部長古田十郎先生は、二月一六日早朝九〇歳の生涯を終えられました。前夜式及び葬儀は経堂緑岡教会において心をこめて行なわれ、多くの青山学院関係者、緑窓会員が参列しました。  
ここに緑窓会長飯久保廣嗣氏の故古田先生に捧げる弔辞を再録いたします。

## 古田十郎先生に捧げる

緑窓会長 飯久保 廣嗣(二期)



私どもが敬愛する初代中等部長、古田十郎先生が、二月一六日午前六時に、あまりにも突然に、神のもとに召されました。まことに悲しく寂しい限りであります。先生は、敗戦後間もない瓦礫の中から、青山学院の建学の精神に基づく中等部を創立されました。先生に導かれたあの時代は、高い理想と深い愛情でおおわれた文字通り手造りの学舎でありました。この伝統は今日も傳承されているのであります。

先生は明治三六年函館の地に生を受けられ、青山学院、米国ドルー神学校に学ばれ、牧師として、教師として、画家として、まことに多彩な九〇年を越す人生をおくられたのであります。母校青山において、先生からキリスト教の信仰に基づく高邁な哲学とあのステンドグラスのようなきらめく美的な心を、わたくしたち教え子は学んだのであります。

一九〇三年に生まれた先生の九〇年にわたる信仰によるご人生は、世紀末を迎えている二〇世紀をほお、ついています。多くのものを多くの人々に与えられた先生のご生涯は、ご家族を、青山学院を、教え子を、自然を、弘前を、そして日本をこよなく愛されたものであります。教育者として幾多の若人を育て、行動美術同人として大作を世に問い、多くのステンドグラスを教会等に施行され、また、我々教え子にはお手づくりの料理をご馳走くださいました。まことに多彩な先生の人生を貫くものは、信仰に基づく理想主義、それもまさに明治の基督者の懐々とした気概であったのであります。かつてわたくしたちが卒業する時に、送別の辞として「いかなる社会の営みに生きるとも、人々から愛され、尊敬される人であることを願う。青山の教育は、その進むべき方向を指示する。諸氏はその行く手に向かって歩まれたい」と述べられ、旧約聖書を

のまことに美しい詩歌を引用されて、「斑鳩の声われらの地に聞ゆ。時代の春をつくるのは誰ぞ。私は祝福を祈って、諸子を送る。若き友達よ、さらば」と結ばれました。われわれ中等部の卒業生は激動する今日幾多の分野に散っておりませんが、先生の教えどおり、少しでも世のお役に立ち、神と人々に愛され、尊敬される人生であるように願うものであります。神の御もとで、大いなる祝福を受けられている先生を、深くお徳び申しあげます。

## 中等部便り

石出道雄(中等部教諭)

### ★教職員の異動

\*今年三月で退職された先生方  
金井きみ子先生

一九五二年に事務所会計係として勤められ、その後家庭科教諭として主に被服を担当されました。  
佐々木君枝先生

一九八八年に司書教諭として勤められ、図書館の整備・生徒の読書指導などを熱心にされました。  
上原京子さん

一九八八年に事務所庶務係として勤められ、生徒の各種手続き・行事の準備など目立たないパートで尽くされました。

これら専任の先生方のほかに、非常勤講師では次の先生方が退職されました。

- 高田和彦先生(聖書)
- 都筑聖子先生(音楽)
- 稲葉純子先生(社会)

\*一九九四年度高中部中等部人事部長一人で高等部・中等部の両部を監督・指揮することが大変なので、今

年度から副部長一人を置くことになりました。

- |       |        |
|-------|--------|
| 部 長   | 志賀正男先生 |
| 副 部 長 | 田中俊夫先生 |
| 教 頭   | 石井道夫先生 |
| 宗教主任  | 石井道夫先生 |
| 教務委員長 | 金子琴江先生 |
| 指導委員長 | 武田賢三先生 |

### ★体育館建築

青山学院創立一二〇周年記念行事として、中等部体育館の建築が行なわれています。建築場所は、高速道路沿いにあった従来の体育館から技術科室(田図書館)・アーバンコート一面の場所で、約一八〇〇平方メートルの広さになります。内部には温水プールと付帯設備・メインフロアー・ブレイルーム・更衣室のほかに、和室・パソコン室・小教室・学友会室・多目的室等があります。完成は来年三月の予定です。

### ★中等部創立五〇周年の準備

一九四七年に創立した中等部も、あと僅かで五〇周年を迎えます。五〇周年の各種事業・行事を考えなければならぬ時期だと思えます。卒業生各位のご協力をお願いいたします。

緑窓会名誉会員、今井義子先生は、一月二十一日、死去されました。先生は中等部創設当時の昭和二十二年から五十一年まで中等部に在籍され、国語の教諭をつとめられました。享年八十一歳でした。ここに現在中等部教諭の真藤純一氏(一七期)の筆による文をかけた、今井先生をしのび、心からの追悼の意をあらわしたいと存じます。

## 今井先生のこと

青山学院中等部教諭 真藤 純一(一七期)

私が中等部に入学した頃の学院は、まだまだのどかでした。構内には桜並木やクローバーの一面などがありました。その一年生の担任に今井先生がいらして、国語の授業をもたれました。入学早々読んだのは教科書ではなく、志賀直哉でした。「作中のY夫人というのは柳兼子さんのこと」、などという先生の解説一言がそれまでの教科書中心の授業からみて新鮮でした。読書ノートも丸善からとりよせた、小豆色のピカピカにコーティングされた表紙の特注品で、その後ろのページからは「鮎、暖簾」といった、中学一年としては一般的でない漢字を書いて行きました。大人になった気分でした。

そういえば、横書きがこれ程普及した今も「国語」は縦書きですが、先生はかなりの授業を横書きで通されました。尾上柴舟先生につかれたという朗詠調の古風な文字が、横書きに調和していたのも、今思うと不思議です。当時、まだ重かったオープンリールのテープレコーダーをワゴンに乗せて、小柄なお体で運んでみえる姿を思い出します。車の免許を取られたのもその頃で、思えば横書き導入といい、色々な面で進取の気性に富まれた方でした。

よく黒板に「ひとよかれ、われよかれ、ちよっぴりよかれ」と書かれ、人間の本性を話されましたが、同時に傾倒する宮沢賢治の幸福論を説かれました。

東北旅行の前、賢治作詞、作曲の「星めぐりの歌」を教えて下さるお姿を思い浮かべると、あれから三十年が経ったとは信じられません。



二十年程前、私が教職として中等部に戻りました。その根底にはいつも「自由の空気が流れていた。数年前、骨折から歩行不自由となられ、その訓練もあつてか、青梅の施設に入られました。

当初、それまでの先生の日々とはあまりに違う集団生活に気落ちされる御様子も本当にっらいものでした。しかし、年に一度か二度のお見舞を通して、御高齢にもかかわらず、新しい環境に適應される先生の強靭さ、柔軟性には驚かされました。

昨年夏、今井先生が最後に担任されたクラスに居て、私が勤めて初めて授業をもった荻原一彦君から数年振りに電話があり、その折り先生の話をして、二人で青梅にお尋ねしました。在職中から先生は韓国語、エスペラント語を勉強されていきました。二十年程前そのエスペラントの海外での会合に出発される先生に、生徒だった荻原君が「先生、頑張つて来て下さい」と言ったことを覚えておられ、彼はいたく感激していました。私は生徒一人一人を大切にされた先生に日頃の自分を反省させられました。施設では、偶然中等部にハンドベルを教えにみえていた門間先生指導の「讃美歌を歌う会」の中心でいらっしやいました。「今年のクリスマスは一緒に」と約束して帰りましたが果たせませんでした。校舎の中で先生を思い出すと、目の前に当時のままのお姿で見えるのが、嬉しく、さびしいことです。

## 緑窓会室移転のお知らせ

副会長 余語悦子(二期)

学院の都合により、昨年九月十四日に間島記念館三階より、ウエスレーホール三階に、他同窓会と共に移転いたしました。

ウエスレーホールは、青山学院東門を入りましてすぐ右側、幼稚園の前のとこで、四月より新装オープンいたします。「アイビーホール青学会館」と建物の一部が続いております。部屋の大きさは、間島記念館の時と同じ位ですが、高等部同窓会室と共有のベランダもあります。六期、貫名さんが持参して下さったセラニ

ユームのプリンターも入ってきれいです。

FAX、コピー機、冷蔵庫等、少しずつ備品も整いまして、同窓会室らしくなりました。五、六、九、十各期の方々のご協力のもと、事務局を毎週火曜日、十三時より十六時三十分迄、開いております。今年も六月四日「緑窓会の日」が近づいて参りまして事務局も忙しくなりました。

事務局をお手伝い下さる方のご参加を、お待ちしております。

# 「緑窓会の日」開催報告

一九九三年度実行委員長 吉川 勝久 (五期)

他委員一同

一九九三年中等部緑窓会「緑窓会の日」は、例年の如く原点・祝祭・継続のテーマのもとに六月五日(土)青学講堂に於て開催されました。中等部の同窓生が一年に一度母校に集い、懐かしい友や先生方と旧交を温めるこの会も、今回で四回目を迎えました。

本年は、礼拝の説教者に、飯久保会長よりご推薦頂きました、国際キリスト教大学教授であられる古屋安雄先生に「たとえ一人でも」という演題で、有意義なお話を伺うことが出来ました。又本年二月故人となられた中等部初代部長の古田十郎先生が、御高齢にもかかわらずご出席下され、聖書の朗読をされていたき一同感激いたしました。古田先生にとりまして最後の「緑窓会」になってしまいました。心より御冥福をお祈りいたします。

礼拝の後は、短大地下食堂にてのティータイム、各期ごとの輪が出来ておしゃべりの花が咲きました。

今回の講演は、五期生のムツシユこと、かまやつひろしさんに「青山学院とミュージックグラフィティ」というタイトルで、懐かしのメロディと中等部時代の楽しい思い出話を、お願いしました。ギター片手に登場したかまやつさんは、我が青春時代の懐かしのナンバーを弾きながら、悪童だった中等部の頃の「今だから話せる」裏話等を数々披露してくれました。興に乗って松江先生や中村三郎先生、同級生も壇上に上り、タイムスリップした様に思い出話が広がりました。そこには先生と生徒というより人間同志のふれあいを感じられ、ああこれが同窓会だなと思われた方が多かったのではないかと思われます。最後に、ヒット曲「我が良き友よ」を全員で合唱して来年の再会を約しました。最後にタイ国チャンタミットに沢山のご寄付をいただいたかまやつさんを始めご出席の皆様、又各期の幹事の皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

## 1994(平成6)年度 収支予算書

### 青山学院中等部緑窓会

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報作成費	500,000	会費収入	
会報発送費	1,100,000	1994年度入会金	825,000
名簿管理費	300,000	275名	
事務用品費	125,000	維持会費収入	550,000
会議費	25,000	新入会員275名	
交通費	60,000	通常会員	1,400,000
印刷費	20,000	諸収入	
水道光熱費	12,000	預金利子	200,000
通信費	100,000		
慶弔費	60,000		
雑費	50,000		
予備費	623,000		
(小計)	(2,975,000)	(小計)	(2,975,000)
次期繰越金	3,759,599	前期繰越金	3,750,599
合計	6,734,599	合計	6,734,599

## 1993(平成5)年度 収支計算書

自 1993年(平成5年)4月1日  
至 1994年(平成6年)3月31日

### 青山学院中等部緑窓会

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報作成費	486,252	会費収入	
会報発送費	971,301	1993年度入会金	822,000
名簿管理費	303,913	274名	
事務用品費	190,493	維持会費収入	1,470,000
会議費	5,790		
交通費	15,600	諸収入	
印刷費	8,712	預金利子	1,995
水道光熱費	12,000	名簿収入	4,000
通信費	57,477	雑収入	81,000
慶弔費	60,900		
雑費	36,470		
予備費	112,500		
(小計)	(2,261,408)	(小計)	(2,378,995)
1992年緑窓会の日補助金	628,140		
(累計)	(2,889,548)	(累計)	(2,378,995)
次期繰越金	3,759,599	前期繰越金	4,270,152
合計	6,649,147	合計	6,649,147

青山学院中等部緑窓会常任幹事名簿

役職	氏名	(旧姓)	期	氏名	(旧姓)	期	氏名	(旧姓)	期
会長	久保語崎賀田	(宮 治)	14	松本登王町	(三 浦)	10	中梅石	(窪 山)	10
副会長	飯余外志岡	(中 村)	11	氏田村野田	(木 田)	10	名 凱宏道	(山 中)	10
会 計	久保語崎賀田	(中 村)	5	代夫子子子	(原 竹)	10	美子雄	(山 中)	10
	飯余外志岡	(中 村)	9	氏田村野田	(原 竹)	10	美子雄	(山 中)	10
各期幹事									
1	久保語崎賀田	(宮 治)	10	崎 寺本	(岩 崎)	33	子織子	(窪 山)	33
2	飯余外志岡	(坂 本)	11	(窪 山)	(村 上)	34	明実清衣	(山 中)	34
3	飯余外志岡	(山 井)	12	(鶴 志田)	(結 川)	35	井脇島田	(山 中)	35
4	飯余外志岡	(德 水)	13	(松 中)	(結 川)	36	今竹鹿和	(山 中)	36
5	飯余外志岡	(木 田)	14	(原 村)	(石 堂)	37	清深池	(山 中)	37
6	飯余外志岡	(中 村)	15	(原 村)	(石 堂)	38	水谷谷	(山 中)	38
7	飯余外志岡	(山 小)	16	(村 田)	(林 田)	39	栗山地	(山 中)	39
8	飯余外志岡	(原 田)	17	(高 橋)	(柳 )	40	森渡岡	(山 中)	40
9	飯余外志岡	(原 田)	18	(石 塚)	(柳 )	41	瀧 水	(山 中)	41
	飯余外志岡	(原 田)	19	(石 塚)	(柳 )	42	瀧 水	(山 中)	42
	飯余外志岡	(原 田)	20	(石 塚)	(柳 )	43	瀧 水	(山 中)	43

緑窓会選出校友会評議員

1	飯余外志岡	1	河外三岸
1	久保語崎賀田	2	野崎上本
3	廣 悦	5	誠宏信英
9	嗣子 (宮 治)	11	一司郎雄

「船場朝日堂物語」出版好評

大正から昭和前期にかけて、大阪船場で盛業をほこり、現在の資生堂の一部となった化粧品問屋朝日堂について、創立者石田公四郎が残した詳細な生活記録をもとに、公四郎の孫にあたる井上(現姓片岡)ゆり子さん(二期)が執筆した「船場朝日堂物語」が一九九三年末に人文書院から出版され、好評のうちに第一刷が完売となりました。書評では「かつてはどの家にもこんな物語があった、その物語を懐かしくよみがえらせた」と書かれています。二月五日にはウスケホールで原田萬三先生、中村三朗先生ご夫妻を招いて出版記念会が開かれました。

日本の音ところ展 5月16日(月)七時

笛、琴、三味線、琵琶、能、狂言など日本の伝統芸術、芸能の世界に魅力的な若者達がどっと現れ、現代から未来に向けて、独自の世界を作り、西洋音楽に埋れてしまったあなたの心に風穴をあけ、日本のこのころの再発見を追っています。その集大成のご案内。

和泉宗家 狂言の世界

今話題の和泉三兄弟、三宅藤九郎(大学法学校在学)、和泉元彌(大学国文学科在学)、そして長姉和泉淳子が、宗家相泉元秀とともに狂言三番叟を演じます。

三群の三味線による組曲「響」

古典と現代をまたにかけ、自在に芸能の世界を往来する常磐津紫弘(鈴木淳雄、二期)による、常磐津、長唄、義太夫三種の三味線による調和とバトルロイヤルの魅力。海外でも高く評価される実力をめいっぱい表現します。

この他に赤尾三千子の横笛、莊村清志のギターなどを加え、新しい可能性に挑む「日本の音ところ展」が開かれます。

お問合せは電話〇三―三二六四―〇二四 四條一〇〇二へ。チケットは各プレイガイド。

第一回青山学院大学同窓祭

九月二十三日(金)祝日 11AM  
於青山キャンパス 入場券二二〇〇〇円  
懇親パーティー 4:30PM  
於青学会館 会費三三〇〇円  
同窓祭では記念礼拝、抽選会、公開授業、コンサート、模擬店等、青山キャンパスを使って楽しい一日を過ごしていただきます。又、懇親パーティーは必ずや会費以上のサービスをと青学会館でも張切っていただけそうです。

中等部第11期3-Eクラス会

一九九四年六月四日(日) 6PM  
(於)青学会館 会費 七〇〇円  
久し振りのクラス会を緑窓会の日の行事終了後に企画しました。木村先生もご出席されます。多勢、お集り下さい。  
岸本 〇三―三四八六―一七―一四

21期二次会のお知らせ

緑窓会の日終了後二次会を開きますので、皆さまおさそい合わせの上、お集りください。  
日時 6月4日(土)午後六時  
場所 カフェセビア(B組杉崎君の店)  
宮益坂郵便局並び  
電話三四〇六―一三〇〇  
四〇〇〇川 持込み歓迎

6年ぶりの6期会開催

日時 6月4日(土) 一七時三〇分受付開始  
一八時 開会  
場所 青学会館

五十路も半ばとなりました。懐かしいキャンパス内の、青学会館で久しぶりに会いませんか。当日は同期の田坂興亜氏が、「緑窓会の日のイベントで氏の長年の研究成果「食品汚染」について講演します。今日の関心事でもあり、ぜひ拝聴しながら、そのあとみんまで旧交をあたためたいと思います。多数のご参加をお待ちしています。お問い合せは 三二七―七―六九六三室伏(田三戸岡)久子まで。

高等部同窓会から

青山学院高等部大同窓会開催のお知らせ

◆五年に一度の大同窓会の開催が下記の通り決定いたしました。大同窓会実行委員会も発足し開催に向け準備いたしております。先生方にも多数ご出席いただく予定です。概要は四月の会報で、又詳細は七月頃皆様の元へお送りいたします。たくさんの方のご出席をお待ちいたしております。

日時 一九九四年九月十六日(金)  
午後五時開会  
懇親会は午後六時より  
場所 ホテルニューオータニ  
会費 一万二千円(予定) 学生は半額

緑窓会四五周年、中等部の五〇周年を  
迎えるにあたり、再び三度びの結集を。

副会長・会報委員長 外崎宏司(二期)

よく云われることですが、同窓会というものは顔の見える期会やクラス会は熱心に取り組めるが、全体となるとどうもよそよそしいありきたりのものになり易い。同じ期、同じクラスならばもともと友人です。上下二期ぐらいの差ならクラブ活動や先生を通じてのつながりもあり、まず話をするこ

とほできるでしょう。しかしこれが何十年もの上とか下となると話は別です。どうしても抽象的な関係となり、親子の間ですらなかなか会話の成立しない現在、ましてや他人との間で、急に仲間だと云われてもとまどう方が当り前です。

すから規約の制定から何から、ずい分と激しい討論の末にでき上がったと聞いています。同窓会の規約ひとつにも気迫を込め、思いを込めずにはいられなかった時代でもあったのです。しかしそれからかなり長い間の休眠期間があったことも事実です。会員の大部分が高等部へ進学することから、高等部の仲間の中でいわば「間に合う」こと、初めに記したように、クラス会でも「間に合う」ことなどの理由からです。

一九七六年、中等部の三〇周年を迎えるにあたって、どうやらそんな状態ではすまないことがわかりました。中等部が一貫してやって来たのに、緑窓会がバラバラでは共同しての作業もできない。大體名簿ひとつ全体ではわからないということでした。この時期に一度、上下を通じての共同作業の結果、「語りつく青山学院中等部の三〇年」を発刊できたことが、後の力になりました。

一九九〇年、緑窓会が四〇周年という時期に、再びこの力が結集しました。四〇周年の二年も前から行事の準備をはじめ、五月に「緑窓会の日」を設けること。記念グッズの製作販売を通じて組織化の

実をあげること。初の全体名簿を発行すること。ことごとくが、全くの「手弁当で」成功しました。ここから現在の緑窓会の日を中心とする全体緑窓会の活動がはじまっています。その当時から活動に参加したものととしては、「原点・祝祭・継続」の三つの柱を、曲りなりにも続けて支えて来られたことに誇りを覚えます。

単に期会、クラス会の連合体であるだけでなく、青山学院の教育方針の原点により近づいた祝祭を地味ながらも継続し、特にあえて知的な力を発揮する場を設けて来たことがこの緑窓会のユニークな点なのです。今年には緑窓会創立時の中等部長、故古田十郎先生が召天されました。この時期に、来年、創立四五周年を迎え、更にすぐ続いて中等部そのものの五〇周年を迎えるということに感慨を覚えます。

どう祝い、どう継承するかについて、三度び会員の皆さまの力を結集したい。よりよい催しを、心に残る形で続けたい。より納得できる活動にしたいというのが、緑窓会幹事会としての切実な願いです。今年の緑窓会の日終了後すぐに次の活動に入ります。